

施設関係者評価実施報告書

平成 31 年 3 月 26日

報告者氏名 菊地 弘子

評価者氏名 菊地 芳子



①全体評価

- すべてのアンケートへの回答、公開など、保護者との連携や情報の共有、質の向上に取り組む姿勢が感じられる。
- 子どもの様子やたくさんの方の行事を経験する中で楽しく過ごせた。さらに、日々の保育がPDCAサイクルを活用しながら展開されていることを改めて知り、園や保育者の努力を評価する。
- 細かい観点での評価がなされているとともに、「園の常識」にとらわれずに見直していくという姿勢を大切にしてほしい。

②学校評価の個別評価

<教育課程・指導>
全体計画及び様々な計画に基づく実践が行われている。
<保健管理(衛生面、健康面など)>
担当者を中心とした取り組みで感染症等の流行がごく小さく収まっている。
<安全管理(避難訓練、安全点検など)>
地域性に基づく課題である洪水訓練を行っていることは評価する。
<特別支援教育(個別発達状況、特別支援学校との連携など)>
各種機関との連携相談をさらに深めていってほしい。
<組織運営>
園務分掌による組織化が進んでおり、各職員の意見を尊重する取り組みがみられる。
<研修(資質向上の取組)>
外部研修の機会を多くし、質の向上に取り組んでいる。
<教育目標・学校評価>
園の目標に沿って自己評価、園評価を実施し、改善に取り組んでいる。
<情報提供(保護者向けたより、ホームページ等)>
園だより(毎月1~2回臨時号を含む)、HP(行事案内、ブログによる園公開)、一斉メール配信(行事変更や感染症対策など)等により適宜情報を発信し、保護者と共有している。
<保護者・地域住民との連携>
園行事(祭りや運動会など)への招待や子育て支援講師の依頼など地域資源の掘り起こし、連携に努めている。
<子育て支援(拠点事業、相談など)>
子育て支援室ゾウ組の開設(週5日)、イベントや相談事業を展開している。
<預かり保育>
1号認定児に対する午後の預かり保育を実施している。
<教育環境整備(遊具、保育室、園庭など)>
全職員による遊具点検、用務員、主幹保育士を中心に植物管理、栽培を実施している。

③その他必要な評価

<食育(給食、栽培など)>
苗植えから収穫まで通した野菜栽培、米つくりを実施し、育てる作業の大変さやおむすびつくりなど自分の手で味わった時の感動を大切に「食うを営む力」の基礎につなげている。
<養護(SIDSなど)>
0歳児5分毎、1歳児10分ごとのチェック表を作成し、記録している。
<苦情解決(掲示、記録など)>
仕組みについて園内に掲示し、受付者を中心に利用者の声を収集している。
年度末に一斉アンケートを実施、無記名での回答を集め、すべてに回答し公開している。

④課題と検討

- 保護者は子供に万全の準備をしてやりたいとも思うが、判断が難しい状態の時もある。簡潔な連絡で保護者への支援を心掛ける。
- 写真販売は枚数が多く選択するのが困難であるとも声があるので、改善をしていく。

保護者代表 初見ひとみ 木村泰子 鹿久保苗子

平成 30 年度 施設関係者評価 資料

<目 的>

保育者の自己評価、園の自己評価をもとに、現状に対する共通理解を図り管理面、運営面等の改善協力を促進する。

★自己評価について

- ◎自己評価の実態 2010～「保育所保育指針」の章立てに基づいて実施
- 2015～「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に基づく評価を実施
- 2018～「平成 30 年度施行幼保連携型認定こども園新教育・保育要領」に基づく評価を実施

保育者の自己評価： 保育関係 17（園長・支援担当含む） 給食関係 4 看護・支援 2

100 項目についての評価方法（十分している・している・少しはしている・していない）

個々のデータを園全体の集計に反映させた結果 「十分している」および「している」の数値は

- I 園の基本姿勢について 91% （前年 90%）
- II 教育保育要領理解と実践 （前年 81%）
 - 総則 72%
 - 内容・配慮事項 65%
 - 健康安全 81%
 - 子育ての支援 70%
- III 独自の取り組み 70% （前年 71%）

園の自己評価：

- ・前年度の保護者アンケートに基づき、すべての意見に対して職員間での話し合いを行った。ルールや「常識」としてとらえていることについての見直しを図り、手法や見通しについての公表（園内掲示&4月保護者会での報告）を行い、改善に取り組んだ。
本年度も引き続き運営状況についてのアンケートを実施しており、改善に生かしていく。
- ・2018年4月1日より幼保連携型認定こども園教育・保育要領が新しくなった。より組織的な体制作りが必要とされ、園務分掌に基づく外部研修を多く取り入れてきた。参加者がそれぞれの知識、経験を蓄積し、さらに議論しあうことで職員間の共通認識の土台ができてきている
- ・実践面では特に健康安全に関する分野の自己評価が高くなっている。数年来にわたる感染症対応や保健担当者（看護師）を中心とした体制づくりが実ってきたものと評したい。
- ・保育者は、日々実態把握、発達の見通し、教材の準備、実践、改善といった一連の流れを実践している。より深い子供理解、子育ての支援のために、職種を超えたチームワークと相互理解を念頭に組織の運営を進めていきたい。

評価者の皆様に行っていただきたいこと

①全体の評価

②個別評価の観点

- ・教育課程・指導・保健管理・安全管理
全体計画に基づく安全・保健・食育・行事計画等
年齢別指導計画（年間・月間・週） 毎日の保育記録（パソコンと連動）
- ・特別支援教育 発達支援 保健センター 西南医療センターとの連携
- ・組織運営 園務分掌の明確化
平均月 2 回の職員会議（提案、実践の後また会議での振り返り、改善を行う）
月 1 回の運営会議 月 1 回の給食会議
- ・研修 免許更新講習・・・1 名 園務分掌に基づく研修・・・延べ 54 名
救命講習（全職員）
- ・教育目標 園の目標「根気強く取り組む子・思いやりがある子」
- ・情報提供 園だより・HP・マチコミメールの活用
- ・保護者・地域住民との連携
ちびっこまつり、運動会等行事へのご招待、子育て支援講師招聘
- ・子育て支援 子育て支援室ぞう組の常設、イベントや相談の実施
- ・預かり保育 1 号認定児に対する 午後の預かりを実施
- ・教育環境整備 主幹保育教諭、用務員を中心に整備

③その他必要な評価

- ・食育 野菜、米栽培を実施
- ・養護 0 歳児 5 分ごとの午睡チェック 1 歳児 10 分ごとの午睡チェック
- ・苦情解決 掲示あり 記録簿あり 本年の申し出者なし

④課題と検討

★ 要望 気づいたこと